令和６年度 第１回 飯田市キャリア教育推進協議会

日時：５月 31 日（金）15:30～17:00
会場：A203・204 会議室
進行：後藤生涯学習・スポーツ課長

１　開会　15:30
２　委嘱状交付　15:30～
３　会長挨拶　（飯田市教育長:熊谷邦千加）
４　副会長指名
５　副会長挨拶
６　自己紹介

７　協議　＜進行：会長＞　15:50～
(1) キャリア教育の推進に関する基本的な方針と取組について（事務局）
　① 地育力を活かした幼児期から高等教育期まで一貫した人材育成の推進体制　資料No.1　P1
　② 地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」の全体像　資料No.2　P2
　③ 飯田市のキャリア教育　取組の経過　資料No.3　P3
　④ 令和６年度飯田市キャリア教育推進計画　資料No.4　P4-7

【別冊資料】
　① 飯田市キャリア教育推進協議会設置要綱　別冊資料No.1　P1-2
　② 第２次飯田市教育振興基本計画　別冊資料No.2　P3
　③ キャリア教育（人材育成）に関わる事業一覧　別冊資料No.3　P4-7
　④ キャリア・パスポート「共通ページ」について　別冊資料No.4　P8
　⑤ 結いジュニアリーダー(16 期生)育成講座の計画　別冊資料No.5　P9
　⑥ 職場・福祉体験学習について　別冊資料No.6　P10-28
≪質疑・意見≫

(2) キャリア教育を通しての人づくり・人材育成のための取組や課題について　16:15～

８　報告　16:40～
　飯田市立小中学校の今後のあり方「小中一貫校としての学園構想」（事務局）　資料No.5　P8-11
≪質疑・意見≫

９　その他、連絡　16:55～
(1) 飯田市キャリア教育推進フォーラム
　　期日：令和７年２月８日（土）13:00～16:00　会場：鼎文化センター
(2) 第２回キャリア教育推進協議会
　　期日：令和７年２月 27 日（木）16:00～17:30　会場：本庁 A203・204 会議室

10　副会長挨拶　16:57～
11　閉会　17:00

飯田市教育委員会

令和６年度　飯田市キャリア教育推進協議会　委員名簿

（敬称略）

会役職	所　　属	所属における役職	氏　　名
会　長	飯田市教育委員会	教育長	熊谷　邦千加
委　員	飯田商工会議所	会頭	原　　勉
委　員	みなみ信州農業協同組合	代表理事組合長	寺沢　寿男
委　員	長野県南信州地域振興局	局長	岩下　秀樹
委　員	南信教育事務所飯田事務所	所長	細江　洋司
委　員	飯伊市町村教育委員会連絡協議会	副会長	北澤　正光
委　員	長野県経営者協会飯田支部	支部長	木下　博隆
委　員	飯田青年会議所	理事長	村松　将太
委　員	飯田市社会福祉協議会	会長	原　　重一
委　員	飯田市社会教育委員	代表	今村　幸子
委　員	飯田市公民館	館長会代表	笹　　行夫
委　員	学識経験者	信州大学大学院 特任教授	山浦　貞一
委　員	飯田市ＰＴＡ連合会（千栄小学校）	PTA 会長	高橋　卓磨
委　員	保育園・認定こども園（三穂保育園）	公立園長会長	上沼　佳子
委　員	飯田市校長会（上久堅小学校）	代表	富成　健太郎
委　員	飯田市校長会（遠山中学校）	代表	橋倉　美奈子
委　員	市内高等学校長（下伊那農業高等学校）	代表	垂澤　和憲
委　員	飯田コアカレッジ	校長	牧島　　晃
委　員	飯田市産業経済部	部長	市瀬　智章
事務局	飯田市教育委員会	教育次長	秦野　高彦
事務局	〃　　学校教育課	課長	福澤　好晃
事務局	〃　　学校教育課	学校教育専門幹	北澤　孝郎
事務局	〃　　学校教育課	補佐兼教育企画係長	倉田　　奨
事務局	〃　　学校教育課	教育企画係	三ツ井　洋樹
事務局	〃　　生涯学習・スポーツ課	課長	後藤　武志
事務局	〃　　生涯学習・スポーツ課	補佐兼社会教育係長	本島　秀勇
事務局	〃　　生涯学習・スポーツ課	社会教育係	矢澤　健
事務局	〃　　生涯学習・スポーツ課	社会教育係	片桐　和子

資料No. 1

R６「飯田型キャリア教育を軸として、地育力を活かした幼児期から高等教育期まで一貫した人材育成」の推進体制

飯田市キャリア教育推進協議会
・キャリア教育推進に関する
①基本的な方針の策定　②評価及び検証
・事務局：生涯学習・スポーツ課、学校教育課

〇キャリア教育推進コーディネーター
(教育支援指導主事)
生涯学習・スポーツ課に在籍し、
キャリア教育全体の事業調整を行う

幼稚園・保育園・認定こども園	小学校	中学校	高校	大学・短大・専門学校
〇地域を散歩する・体験する・浸る ・お手伝い ・友だちとの遊び ・地域行事、地域の方や小学生との交流	〇地域を学び、考え、伝える ・決められたお手伝い・当番活動 ・家族の仕事調べ・社会見学 ・児童会活動・地域行事への参加	〇地域とつながり、関わる ・キャリアフェス・地域の職場体験学習 ・生徒会活動・ボランティア ・地域行事への参加・参画	〇地域のために行動・貢献する ・地域と協働した学び・探究学習 ・地元企業を知る・インターンシップ ・講座への参加・ボランティア	〇地域のために行動・貢献 ・専門性を活かした地域と協働した学び ・探究学習・ボランティア

キャリア教育研究委員会
・キャリア教育の推進に関わる具体的な事業を行う　・関係課：飯田市公民館　・事務局：学校教育課、生涯学習・スポーツ課

園小連携推進委員会
・「発達や学びのつながり」を支える取組を考えたり周知したりする。
・事務局：学校教育課、
保育家庭課、こども課

≪小中連携・一貫教育≫
・「ふるさと学習」中核に小中一貫したカリキュラムに沿って実践を重ねる。
・事務局：学校教育課　・関係課：生涯学習・スポーツ課

「職場体験・福祉体験」
「結いジュニアリーダー育成講座」
・事務局：学校教育課、
生涯学習・スポーツ課

高校・地域連携研究会
・「探究学習」の在り方を研究
・事務局：大学誘致連携推進室、生涯学習・スポーツ課

高等学校長との懇談会
・キャリア教育、探究的な学び、就労等への支援や情報共有を行う
・事務局：生涯学習・スポーツ課

「地域人教育」
・事務局：飯田市公民館
「就労促進に関する事業」
・事務局：産業振興課
「学輪IIDA・高大連携」
・事務局：大学誘致連携推進室

飯田市キャリア教育推進フォーラム
・発表、評価の場として年1回開催　・事務局：キャリア教育推進協議会事務局

家庭におけるキャリア教育（わが家の結いタイム）
・関係課：保育家庭課、学校教育課、生涯学習・スポーツ課　等

地域・社会教育におけるキャリア教育
（地域行事への参加・参画。ボランティア等）
・関係課：飯田市公民館、学校教育課、生涯学習・スポーツ課、社会福祉協議会　等

庁内調整会議
・各課が事業推進する上での横の連携に重点を置いた調整・情報共有
・関係課：学校教育課、飯田市公民館、大学誘致連携推進室、産業振興課、保育家庭課、共生・協働推進課、ゼロカーボン指定推進課　・事務局：生涯学習・スポーツ課

資料No. 2

地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」の全体像（イメージ）

R６年度　飯田市教育委員会

教育ビジョン:地育力による 未来をひらく こころ豊かな人づくり ＊地育力:飯田の資源を活かして飯田の価値と独自性に自信と誇りをもつ人を育む力

変化の激しいこれからの時代を生き抜くために、地球規模で物事を考える広い視野と、生まれ育った地域に誇りと愛着を育むことが大切だと考えています。「地育力」を活用したふるさと学習や体験的な学びを軸とした「飯田型キャリア教育」を幼児期から高等教育期まで、発達段階に応じて切れ目なく推進していきます。「飯田型キャリア教育」では、自らの生き方を主体的に切りひらき、人とつながりあっていくための力を育み、ふるさとを心根に、未来の地域の担い手や地域を支える人(ふるさとのよさに気づき、自ら関わろうとする態度をもつ人)づくりを目指します。

飯田型キャリア教育で育みたい4つの力
- ■人とつながる力(結いの力)　例:自己表現力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、チームワークなど
- ■自分を見つめ夢や希望を描く力(みつめる力)　例:自己の役割理解、前向きに考える力、忍耐力、主体性など
- ■課題をもって最後までやり抜く力(うごく力)　例:情報収集・課題発見力、計画力、実行力、評価・改善など
- ■職業や仕事について興味や関心をもつ力(みとおす力)　例:学ぶこと・働くことの意義や役割、多様性の理解など

ふるさとのよさに気づき、自ら関わろうとする態度をもつ人

【事例③】竜東中学校

■総合的な学習の時間を見直す

・単発的な活動が多かった反省から、「ふるさと学習」を３年間かけてゆとりをもって、地域の人・もの・ことに繰り返し関わりながら探究型の学習となるように見直して、高校へつなげていく。

■竜東の魅力再発見「なんでこんなところにキャンプ場が！」（１年）

・地域おこし協力隊など本気で取り組む地域の方の想いに触れ、地域に対する関心を高め、自分事に置き換えて、キャンプを提案。

【事例①】三穂保育園

■飯田市の自然を生かした「いいだ型自然保育」

・園庭のミニ田んぼでどろんこ遊びを全身で楽しんだり、ヤギとの触れ合いで生き物の温かみを感じたり、地域の方にも支えられ、心も体も五感で感じる体験を大事に。

■おいしくできたよ 五平餅作り！

・おばあちゃんが教えてくれたレシピには「人肌とは？」など知らないことばかり。「なんだろう？」「やってみたい！」とワクワクしながら子どもが主体となる保育を実践。

※左下は保育園・認定こども園の実践を示し、右上がりのキャリア形成上に小学校や中学校のキャリア教育実践があり、右上が高等学校・高等教育機関の実践を表す。

子どもたちが自分事として取り組み、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりして、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげる。

発達段階（学びをつなぐ）幼児期の教育から高等教育期まで、発達の段階に応じ体系的に実施

探究のプロセスはスパイラルに進行

【カリキュラム・マネジメント】　☛ 地域学習素材［○は地域財産（宝）　●は地域課題］

地域の魅力や子どもの実態を把握し、教育課程を教科等横断的な視点で組み立て、評価・改善しながら系統的・組織的に地域人の育成を図る。

◆総合的な探究の時間(質の高い探究)
☛地域協働型探究活動(地域人教育)
・社会的な課題を仲間と協働し解決に向け取組む
☛探究過程の高度化、探究の自律的な学び
・科目「課題研究」、「探究の時間」 等

＜探究活動＞
地域を学びのフィールドにした学習「地域人教育」を展開。住民と一緒に地域の課題や魅力を発見し、解決と魅力発信をしている。

＜探究活動＞地域貢献
地域のために行動・貢献する
[地域素材の視点:○●●●●]

＜結いジュニアリーダー育成講座:年7回＞
☛ 市内9校 13 名で構成

キャリア・パスポート

◆総合的な学習の時間
特別活動(キャリア教育の要)
☛職場体験学習(事前事後学習)、福祉体験、キャリアフェス、起業体験、生徒会活動　等

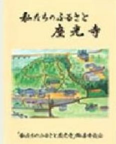
■「小中連携・一貫教育」…H23 年度スタート
・義務教育９年間を見通した連続した学び
■「飯田コミュニティスクール」…H29 年度設置
・地育力を活用した地域と保護者の力を結集

＜職場体験・総合学習＞地域参画
地域とつながり、関わる
[地域素材の視点:○○○●●]

◆生活科
総合的な学習の時間
特別活動(キャリア教育の要)
☛ふるさと学習、
宿泊体験活動、職場見学、
児童会活動、環境学習等

中学校区カリキュラムメンター（キャリア教育担当者）

探究アドバイザーとの出会い（地域の先生）



＜ふるさと学習＞　体験の言語化
地域について学び、考え、伝える
[地域素材の視点:○○○○●]

◆遊び
☛動物飼育、作物栽培、自然保育

■ 園小連携推進委員会

＜遊び・生活科＞　遊びの学び化
地域を散歩する・体験する・浸る
[地域素材の視点:○○○○○]

知的好奇心「なぜ？ どうして？」

地域社会におけるキャリア教育
- 講座、イベントへの参加参画・地域貢献・ボランティア
- 地区行事への参加参画・ボランティア
- 分担されたお手伝・地区行事への参加

家庭におけるキャリア教育
- 遊び　わが家の結いタイム［挨拶・読書　会話・お手伝い］

発達段階

＊家庭や地域社会におけるキャリア教育とも連携していく

地域・社会(地域をつなぐ)

《例》地域学習素材から発展する探究事例 ： ○蝶に興味[園]～○蝶の採集や生態(調べ学習)[小]～○●農業体験(自然に携わる方との出会い)[中]～●環境問題の調査・提言[高] ～スパイラルに進行していく

園・小・中・高が一貫した理念で飯田型キャリア教育を推進し、産学官が協働することで持続可能な社会づくりの担い手である人材育成につなげる。 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【事例⑤】飯田コアカレッジ

■IT ビジネス学科

・当地域に就職を希望する学生が多く、地域への理解を深めるために、「地域の活性化に向けて私たちができること」をテーマに、「丘の上魅力発信 MAP の作成」や「南信州アンテナショップ開催による特産品 PR」等に取り組み、社会人基礎力を醸成。

【事例④】飯田女子高等学校

■「学校を売ろう！」（３年）

・「中学生に自分に合った高校を見つけてもらいたい」中学３年生の時に感じた進路選択のもやもやを解決しようと、高校生が様々な困難を乗り越えて、学校を紹介するイベントを、22 人の高校生実行委員とともに開催。

【事例②】龍江小学校

■龍江の竹とわたしたち～３年間の竹の学習から学んだこと～（６年）

・「放置竹林とは何か？」「どのような問題があるのか？」について調べ、放置竹林を有効活用する取組。

・４年生では水鉄砲や竹製品の製作。５年生では竹灯籠。６年生では竹製品を天龍峡マルシェで販売。地域の方と関わりながら、自分たちができる課題解決を実践し、地域への思いを高める。

各学校段階におけるキャリア教育推進の主なポイント（文部科学省・長野県教育委員会）

幼稚園 保育園 こども園	小学校	中学校	高等学校	高等教育（大学・短大・専門学校）
人格形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分から関わろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度等を養う	働くことの大切さの理解、興味関心の幅の拡大等、社会性、自主性自律性、関心意欲等を養う	社会における自らの役割や将来の生き方、働き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く	生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、これを通じて勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立する	学校から社会・職業への移行を見据えて、自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸張・深化させる取組を教育課程の内外で充実

※ 使用している事例は令和5年度の取組です。

資料No.	3

R６

飯田市のキャリア教育　取組の経過

年度	研究内容等（〇：義務教育　■：高等学校等）	取　組　の　経　過
１８ １９ ２０	〇キャリアスタートウィーク推進地域指定（文科省）を受ける ・飯田西中学校が５日間の職場体験に取組む ※H17～キャリアスタートウィーク推進事業(文科省) 〇飯田西中学校以外の中学校が３日間以上の職場体験に取組む	【中学校での「職場体験学習」の定着期】 飯田西中・丸山小をモデル校としてキャリア教育の推進 〇中学校の職場体験からスタート 飯田西中学校が職場体験に取組み、市内全中学校が続く
２１ ２２ ２３ ２４	〇飯田市のキャリア教育研究指定校制度を設け、小学校のキャリア教育にも取組む ・[研究指定校]　丸山小・飯田西中…H25まで 〇小中一貫のキャリア教育の研究指定(文科省)に取り組む　☛[研究協力校]　丸山小・飯田西中 ■学輪IIDA設立[19大学・43名] 〇教科等におけるキャリア教育の研究 ・小中学校におけるキャリア教育年間指導計画の作成 〇キャリア教育における小・中・高の連携 ・「ふるさと学習」を中核にした「キャリア教育年間指導計画」の作成[モデル＝丸山小・西中] ■地域人教育スタート[飯田OIDE長姫高校商業科]	【小中一貫に向けたモデル実践・研究期】 〇キャリア教育のプラットフォームを構築しキャリア教育スタート ・飯田市キャリア教育推進協議会、キャリア教育研究委員会、キャリア教育小中連携協議会の設置 対象を小学校まで拡大し、職場体験に留まらずキャリア教育全般を推進 〇「ふるさと学習」を中核にすえた小中学校の年間指導計画作成 □地域人教育は２人の商業科教諭の熱意で誕生
２５ ２６ ２７ ２８ ２９ ３０	〇「ふるさと学習」を中核にキャリア教育の推進 ・年間指導計画に基づいた実践と検証 ・小学校キャリア教育担当職員研修会の実施 〇全小中学校でキャリア教育指導計画作成 〇キャリア教育年間指導計画を基に小中学校での実践が始まる ・各中学校区の専門部会等で小中９年間見通した指導計画を研究 〇第２次飯田市教育振興基本計画がスタートし、ＬＧ(地域・地球)飯田教育の視野から、ふるさと学習とグローバル教育の一体的な推進を中核に据えた義務教育９年間の系統的なキャリア教育に取組む ■市内高等学校長との意見交換会スタート(年２回) 〇全中学校区で、小中一貫した９年間のキャリア教育指導計画を作成	【普及・実践期】 市内全小中学校においてキャリア教育を推進 〇キャリア教育指導計画の作成 「ふるさと学習」を中核としたキャリア教育指導計画を作成 〇ＬＧ飯田教育がスタート 「ふるさと学習」と「グローバル教育」を一体的に推進するキャリア教育の出発 〇小中一貫したキャリア教育指導計画 全中学校区で９年間を見通したキャリア教育指導計画を作成
１ ２ ３ ４ ５ ６	〇小中連携・一貫教育で取り組む系統的なキャリア教育の実践の積み重ねと修正 〇学校と地域・社会がつなぐ飯田型キャリア教育　切れ目ないキャリア形成の見える化 ■市内高等学校長との懇談会(年３回：教育委員会) 〇飯田版キャリアパスポート共通ページの作成 ＊飯田型キャリア教育の推進体制を再構成し、幼児期から高等教育期までの推進をスタート 〇■キャリア教育に関わる意識調査実施(高校) ■高等学校では、総合的な探究の時間が始まる ＊幼児期から高等教育期まで一貫して推進していくために、高等教育機関も推進体制に位置付ける 〇小中一貫教育に向けての研究を始める 不登校児童生徒支援として体験学習活動の拡充	【連携・協働期】 〇飯田型キャリア教育の資質・能力の見直し （文科省が例示する基礎的・汎用的能力と整合） 〇飯田型キャリア教育（人材育成プログラム）の全体像の提案～園・小・中・高・大～ ◇県・上伊那と連携し「伊那谷deキャリア教育」の推進（リニアバレー構想実現プランの一つ） *R6は休止 コロナ禍 幼児期から高等教育期までつながる取組で推進

資料No.	4

令和６年度　飯田市キャリア教育推進計画

１　ねらい　教育ビジョン：地育力による　未来をひらく　こころ豊かな人づくり

＊地育力：飯田の資源を活かして飯田の価値と独自性に自信と誇りをもつ人を育む力

変化の激しいこれからの時代を生き抜くために、地球規模で物事を考える広い視野と、生まれ育った地域に誇りと愛着を育むことが大切だと考えています。

「地育力（地域資源+人）」を活用したふるさと学習や体験的な学びを軸とした「飯田型キャリア教育」を幼児期から高等教育期まで、発達段階に応じて切れ目なく推進していきます。

「飯田型キャリア教育」では、**自らの生き方を主体的に切りひらき、人とつながりあっていくための力を育み、ふるさとを心根においた未来の地域の担い手や地域を支える人（ふるさとのよさに気づき、自ら関わろうとする態度をもつ人）づくり**をめざします。

＊「飯田型キャリア教育」は「地育力で私（の生きる力）と地域の未来をひらく教育」と説明しながら推進します。

２　地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」で育みたい４つの力

【文科省が例示する基礎的・汎用的能力】

■人間関係形成・社会形成能力
（かかわる力）

■自己理解・自己管理能力
（みつめる力）

■課題対応能力
（うごく力）

■キャリアプランニング能力
（みとおす力）

【４つの力：飯田型キャリア教育で目標とする資質・能力】

■人とつながる力（結いの力）
例：自己表現力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、チームワークなど

■自分を見つめ夢や目標を描く力（みつめる力）
例：自己の役割理解、前向きに考える力、将来を描く力、忍耐力、主体的行動など

■課題をもって最後までやり抜く力（うごく力）
例：情報の理解収集、課題発見力、計画力、実行力、評価・改善など

■職業や仕事について興味や関心をもつ力
（みとおす力）例：学ぶこと、働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善など

ふるさとのよさに気づき、
自らかかわろうとする態度をもつ人

【長野県が目標とする資質・能力】

自分の人生を構想する
『キャリアデザイン力』の育成
・・・キャリアプランニング能力をベースに、１度しかない自分の人生について、職業を通してどう社会と関わり、どう生きていきたいのかを、構想し続けていく力

⇩

社会的・職業的に自立した人間の育成

長野県キャリア教育ガイドライン R2.3 改訂

＊令和２年度まで「飯田型キャリア教育」では、５つの力を育むように示されていたが、文科省の例示にあわせて４つの力に整理し、「ふるさとのよさに気づき、自らかかわろうとする力」は４つの力を支え、めざす姿とした。

３　地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」推進の方針

(1) 子供たちが地域の人や資源と関わりながら、実体験をともなう協働的な学びを行える場をつくる。家庭・地域と連携を強め、社会全体で子供の学びの機会を支え、地域も磨き続けていく。

(2) 行政は、子供たちの学びを支える多様な人や資源をつなげるコーディネート機能を果たす。

(3) 子供たちの発達段階に即し、幼児期から高等教育期まで一貫した理念で子供を育てる。発達段階に応じた体系的な学びを、地域、事業所、教育・福祉、行政が目的を共有し、それぞれの役割を発揮しながら協働して支える。

＜ふるさと学習等の体系的な学び＞
地域を散歩・体験・浸る⇒地域を学び・知る⇒地域を考え・伝える⇒地域のために行動・貢献

４　各学校における方策の留意点

(1) 地育力を活用した「ふるさと学習」を中核に、小１～中３を見通し、小中一貫したキャリア教育年間指導計画に沿って実践を重ね、園とのつながりも含めて改善を図っていく。教師がレールを引きすぎず一人一人の願いや主体性を大事にし、体験が「探究的な学び」となるように展開を工夫したい。（ムトスの学び）学んだことを地域に発信する等、表現活動を大切にするともに、体験を振返る時間をとり自分を見つめ(内面化)、友と共有しながら自分の成長を確認し、将来へ向けての自分のあり方を考えさせていく。

(2) 各学校では特別活動や教育活動全般を通じて「自己理解」「他者理解」「役割理解」の視点から取り組み内容を整理していく。特に地域資源や人と関わる内容を大事にする。それぞれの場面で「意思決定」する場面を繰り返し位置づけ、目指す資質・能力（４つの力）を育んでいく。

(3) 小学校から高等学校までキャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習記録、自身の変容や成長を振返り、地域の方・活動の伴走者との関わり等を端的にキャリア・パスポートに綴り、未来の自分を想像し続けていく。(飯田市独自の共通ページと各学年５枚程度に整理したものを引き継ぐ)

参考 □【自己理解】…自己の成長を実感することで、自分の得意なこと、好きなこと、努力すべき点を理解する □【他者理解】…協働することの意義を実感することで、人間の生き方の多様性と可能性を理解する □【役割理解】…社会（集団）の中の自分や他者の役割を実感することで、職業（仕事）を通して社会と関わることが、自分らしく生きる人生につながることを理解する 長野県キャリア教育ガイドライン R2.3 改訂

５　地域・社会教育におけるキャリア教育

・地域行事や講座、ボランティア活動においても、「自己理解」「他者理解」「役割理解」の視点を意識しながら事業に取組み、「意思決定」を行う場面を大事にし、目指す資質・能力（４つの力）を育んでいく。

６　家庭におけるキャリア教育

・「わが家の結いタイム」(「あいさつ」「お手伝い」「会話」「読書」）とも連携していく。

７　会議開催

⑴ 飯田市キャリア教育推進協議会

①　第１回　令和６年５月 31 日（金）
　・キャリア教育に関する基本的な方針と具体的な取組について協議
②　第２回　令和７年２月 27 日（木）
　・今年度の取組の評価及び検証

⑵ 飯田市キャリア教育研究委員会

①　第１回　令和６年６月６日（木）
　・信州大学教職支援センター　荒井 英治郎 准教授による講義
　・飯田型キャリア教育の推進について共通理解し、各校のキャリア教育の推進計画について発表
　・学びをつなぐ「キャリア・パスポート」の校種間の引継ぎや活用方法について情報交換
②　第２回　令和６年 10 月３日（木）
　・各校からの実践事例報告
③　第３回　令和７年２月 14 日（金）
　・飯田市キャリア教育推進フォーラムを終えて成果と課題を協議

⑶ 園小連携推進委員会

①　第１回　令和６年　月　日（ ）
②　第２回　令和７年　月　日（ ）

⑷ 市内高等学校長との懇談

①　第１回　令和６年６月 12 日（水）
②　第２回　令和６年　月　日（ ）

⑸ 高校・地域連携研究会

・市内各校代表教諭（総合的な探究の時間担当者）　　・昨年は年３回実施
・第１回は、飯田市キャリア教育研究委員会に参加し、飯田市や各校の取組を理解し合う
・事務局：大学誘致連携推進室　生涯学習・スポーツ課社会教育係

⑹ 庁内調整会議　　令和６年５月 10 日（金）

・各機関でキャリア教育や人材育成に関わる事業について情報共有、意見交換

８　その他の取組

⑴ 小中における取組

・小中連携・一貫教育推進委員会において、園-小-中-高の連携が重点の一つにあり、めざす子ども像に向けて小中一貫カリキュラムに沿って実践を重ね、ふるさと学習での育ちを共有したり、カリキュラムの修正をおこなったりする。

⑵「結いジュニアリーダー」育成講座

・市内９中学校より中学２年生 13 人が年間７回の講座を土曜日に実施。
第１回（６月１日）、第２回（７月 13 日）、第３回（９月７日）、第４回（10 月 26 日）、
第５回（11 月 30 日）、第６回（１月 11 日）、第７回（２月８日 兼飯田市キャリア教育推進フォーラム）

(3) 高校生への取組

① 高校生意識調査の実施

・12 月にキャリア教育に関わる３つの質問について、南信州８高校で実施し経年変化をみていく。

※ 地域への愛着度については、全国学力・学習状況調査の調査項目にないので、小学校６年、中学３年生に 12 月に実施して経年変化をみる

問１　ふるさと（自分の生活している地域）に対して愛着を感じていますか
問２　地域(社会)をよりよくするために、地域課題の解決に関わりたいと思いますか
問３　地域(社会)と自分のつながりや関係を意識しながら、自分の将来について考えることがありますか

② 総合的な探究の時間への支援、社会教育機関からのアプローチ（高校生講座など）

(4) 学校と企業が連携した取組

① 中学校職場・福祉体験の実施

・職場体験実務担当者会　第１回：５月 16 日（木）　第２回：12 月９日（月）

・事業所（約 700）への照会。新たに不登校生への受け入れ可否についてもアンケート項目に追加

② 高校と地元企業をつなぐ取組・地元企業による学校支援について（産業振興課、生・スポ課）

・ＳＹＭＳによる出前講座・企業リスト作成

(5) 若者への取組

・飯田市キャリア教育推進協議会と飯田市キャリア教育研究委員会に、飯田短期大学と飯田コアカレッジに１年交代に委員を委嘱し、それぞれの学校での取組を共有していく。

・社会教育機関からのアプローチ

・二十歳の集い実行委員による地域学習

９　令和６年度飯田市キャリア教育推進フォーラムの実施

・期日：令和７年２月８日（土）　会場：飯田市鼎文化センター

・R5 年度の内容

第１部　幼児期から高等教育期までのキャリア教育実践発表

第２部　パネルディスカッション　・テーマ：若者の皆さんと一緒に私と地域の未来を考えよう

10　広域的なキャリア教育の取組

・上伊那と南信州が連携してキャリア教育を推進し、飯田市教育委員会も協力してきた。

・「伊那谷 de キャリア教育研修会」については、今年度は休止。

資料No. 5

飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針 ～第１次～（案）

令和6年5月
飯田市教育委員会

今後のあり方に関する検討の視点

☆ 特色ある教育をどのように進めるか
☆ 学校施設の配置・枠組はどうあったらよいか

方針策定の背景

これからの教育に求められること

◎ 学習者視点からの「主体的、対話的で深い学び」への転換
◎「個別最適な学び（指導の個別化、学習の個性化）」と「協働的な学び」の推進

飯田市の小中学校を取り巻く状況

△ 急速に進む児童生徒数の減少
（H５;11,743人⇨R５;7,574人⇨R11;6,437人）
△ 大規模な改修・改築が必要な学校施設の増加
（R５築50年以上;13/28校⇨R11;25/28校）
△ 地域の担い手や支え手の減少への危惧
（地域人材育成の役割の重要性が増し、地域の特色を生かした魅力ある学校づくりが求められる）

飯田市の教育の特長

H18～　飯田のキャリア教育（生き方教育）
H23～　小中連携・一貫教育
H29～　飯田コミュニティスクール

【教育ビジョン】
地育力による 未来をひらく 心豊かな 人づくり

小中一貫校としての学園構想

学園構想の目的

義務教育課程９年間の学びの「系統性と連続性」を高め、各学園で「教育目標」や「めざす児童生徒の姿」を共有して小中学校教職員が一体となり、飯田コミュニティスクールとして地域・家庭も協働して子供たちの学びを支え、生き方教育でもある飯田のキャリア教育を特色に据えた教育活動を行うことで、**子供たちが生涯にわたって生き抜く力の基礎を、これまで以上にしっかりと、豊かに育んでいく**ことを目的とします

学園のあらまし

＊中学校区の小中学校を**小中一貫教育を行う９つの「学園」**として規定します
飯田東学園・飯田西学園・緑ヶ丘学園・竜東学園・竜峡学園・旭ヶ丘学園・鼎学園・高陵学園・遠山郷学園
＊現在の小中学校の施設を生かした「**施設分離型**」（小学校と中学校が距離的に離れている型）とし、教職員の会議や研修、小中合同授業や活動にはICTの効果的な活用も図って進めます
＊小学校６年間、中学校３年間の教育課程のまま小中一貫教育を行う「**小中一貫型小学校・中学校**」とします

学園における学びの変化と効果

① **小中学生が一緒になって行う授業や特別活動（児童・生徒会活動、行事等）の機会 が増えます**
⇒ 子供たちは多様性を認め合い、人とつながりあって共に生きていく力を身につけることができます
② **義務教育９年間の学びの系統性と連続性が高まります**
⇒ 子供たちは階段をより確実に上りながら資質・能力を高めることができます
③ **飯田のキャリア教育（地域の人や資源・課題と関わる実体験を通して学ぶ生き方教育）を、９年間の発達段階に即して、順序立てて効果が上がるように行います**
⇒ 子供たちは自分自身で生き方を考え、切りひらいていく力の基礎を身につけることができます

学園における教育の特長

① **ムトスの学び**
・児童生徒の「なぜ？」「どうして？」という「私の問い」と、「～したい」「～になりたい」という「私の願い」を生み出し、子供たちが主体的に学習に向かう状態をつくり出します
② **飯田のキャリア教育**
・特別な教科として「飯田のキャリア教育の時間」を設けて、生き方 教育ともいえるキャリア教育を、義務教育９年間の発達段階に即して、順序立てて継続して行います
③ **異年齢集団による学習や活動**
・合同授業や特別活動（児童・生徒会活動、行事等）で、小中の垣根を越えた異年齢での学びや活動の機会を充実させ、社会生活において要となる異年齢集団での適応力や協働意識を育みます

「小中一貫型小中学校」としての「９つの学園」（イメージ）

飯田西学園(586)
- 飯田西中学校(209)
- 丸山小学校(377)

飯田東学園(531)
- 飯田東中学校(190)
- 丸山小学校(81)
- 追手町小学校(145)
- 浜井場小学校(115)

高陵学園(1,419)
- 高陵中学校(511)
- 座光寺小学校(214)
- 上郷小学校(694)

鼎学園(996)
- 鼎中学校(327)
- 鼎小学校(669)

緑ヶ丘学園(1,808)
- 緑ヶ丘中学校(653)
- 松尾小学校(707)
- 下久堅小学校(111)
- 竜丘小学校(337)

旭ヶ丘学園(1,548)
- 旭ヶ丘中学校(527)
- 山本小学校(225)
- 伊賀良小学校(796)

竜東学園(201)
- 竜東中学校(67)
- 上久堅小学校(50)
- 千代小学校(35)
- 千栄小学校(28)
- 龍江小学校(21)

竜峡学園(418)
- 竜峡中学校(145)
- 龍江小学校(88)
- 川路小学校(113)
- 三穂小学校(72)

遠山郷学園(67)
- 遠山中学校(25)
- 上村小学校(19)
- 和田小学校(23)

基本理念

①これまで積み重ねてきた「小中連携・一貫教育」を、より確かな仕組みとして、義務教育９年間の連続的な学びを充実します

②飯田コミュニティスクールの仕組みを活用し、地域が参画・協働して地域の担い手を育みます

③飯田のキャリア教育等を活かした特設カリキュラムを設定し、各学園で特色ある教育を行います

④小中学校の垣根を超えた教職員のチームとしての教育力を高めます

※括弧内の数字は令和５年５月１日現在の児童生徒数（丸山小・龍江小の児童数は住所地から中学校区を推定）

◎教育委員会規則により「学園」を規定することを想定しています。

【参考】『小中一貫教育』について

小中一貫教育の目的（参考；中教審答申2014）

① 組織的・継続的な教育活動が徹底でき、教育効果を高められる（学力・学習意欲の向上）
　・９年間を通して児童生徒を育てる仕組が整備され、学校教職員や地域住民代表が変わっても継続的な教育活動が行えるとともに、小学校時に定着しきれなかった内容を中学校で補うことが容易になったり、教職員の意識改革や指導力の向上が期待できる。
② 子供たちの社会性の育成機能の向上
　・異校種、異学年、隣接校間の児童生徒の交流が進み、より多様な人間関係を経験できる。
③ いわゆる「中一ギャップ」の緩和による生徒指導上の諸問題の減少
　・中学校の様子が事前にわかるため、大きな不安を抱いて進学する状況が改善される。

運営上の工夫（参考；小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き　平成28年12月26日文部科学省）

① 指導の一貫性を確保する
② 学年段階の区切りを柔軟に設定する
③ 小学校高学年における教科担任制の導入や、乗り入れ指導を段階的に進める
④ 多様な異学年交流を設定する
⑤ 特別支援教育の充実を図る

留意すべき課題（参考；小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き　平成28年12月26日文部科学省）

① 人間関係や相互の評価を固定化させない工夫
② 小学校高学年におけるリーダー性の育成
③ 転出入する児童生徒への対応に関する工夫
④ 多様な異学年交流を設定する
⑤ 教職員の多忙化・多忙感への対応

【参考】小中一貫教育の推進に向けた新たな学校形態

区　分	小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
学年区割	小学校６年、中学校３年（6-3制）	発達段階や教育課題に応じて4-3-2制や5-4制等の設定が可能
組織運営	小中それぞれに校長・教職員組織 ※小中学校における教育を一貫して進めるためにふさわしい運営の仕組を整えること	一人の校長 一つの教職員組織
教員免許	所属する学校種の免許状を保有 していること	原則として小中両方の免許状を併有していること
教育課程	９年間の教育目標の設定 ９年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程	
独自教科の設定	可能（ふるさと科・地域づくり科・自然と暮らし科 等）	
施設形態	施設一体型、施設隣接型、施設分離型	
標準規模	小中それぞれ12学級以上18学級以下	18学級以上27学級以下
設置手続き	市教育委員会規則等	市条例

（参考；小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き　平成28年12月26日文部科学省）